



水上消防団
第1分団

神谷 和憲 さん

知識と経験が輝く、水上のヒーロー

執筆者 水上消防団 田浦 健一

水上消防団のヒーローといえば、第1分団の重鎮、神谷部長です。1月で還暦を迎えられた神谷部長は、5歳のときに疎開先から神戸に移ってこられ、小さいころは、高取山、布引、六甲山へのハイキングや飯ごう炊さん、また、須磨での海水浴、遠矢浜や和田の防波堤での釣り、貝拾い、渡り蟹取りと、山へ海へと神戸の自然を十分堪能されたようです。昔は神戸の0メートル地帯として有名な三菱重工のある和田岬に住んでおられ、台風シーズンには高潮により度々避難しなければならなかったそうです。「ある時、水が引ききら

ないうちに外へ遊びに出た子どもが、蓋が外れているのに気付かず、冠水した道路のマンホールに吸い込まれたこともある」という経験を基にしたお話を聞くと、戦後神戸の生き字引だと感心します。

神谷部長は、昭和38年に新港にある会社に就職。以来約40年間、港とともに過ごしてこられました。こういう人に、水上消防団員として活躍してもらおうと、平成13年に無理を言って団員となっていたきました。地域では、毎年近隣の会社合同で、新入社員などを中心に消防訓練に参加してもらっています。ここで神谷部長は本領発揮。粉末消火器の説明では、噴射させると大量の白い粉が噴出するため、屋内で使うと一瞬で部屋が真っ白になり、火元が見えなくなることを手際よく説明し、実際の火災では気が動転して、一瞬



何をしてよいか分からなくなるので、訓練を通じて少しでも落ち着いて行動できるように、と付け加えるなど、その的を

射た説明に「なるほど」と参加者一同感心するばかり。自分の活動が防災に役立つならと一生懸命知識を深め、訓練方法を工夫して頑張っておられる姿には敬服します。入団時の基礎講習で、今更ながら人命の尊さ、災害発生時の助け合いの大切さを痛感したと、現在も市民救命士、AED、救急インストラクターなどの養成講習会に参加し、若い者に交じり、少しも臆することなく一生懸命に取り組まれています。

神谷部長、これからも地域と水上消防団第1分団のためにご活躍されること、期待しています！